

2019年に皆様からお寄せいただいた寄付金
27,630,938円(1,927件)は、
令和2年度の次の事業に活用・充当いたしました。

寄付金の使途	寄付件数	寄付金額(千円)	活用・充当した事業
周到的な防災・減災対策への支援	99	1,802	地域防災力強化促進事業
水資源対策を支援	44	537	香川用水水源の森保全事業
健康長寿のかがわづくりへの支援	55	845	がん検診受診促進事業
子育てや少子化対策への支援	266	4,321	第3子以降保育料等免除事業
攻めの農林水産業を支援	163	3,286	「おいでまい」ブランド強化事業
AI等先端技術の利活用促進を支援	13	200	かがわAIゼミナール開催事業
栗林公園ニシキゴイ復活応援プロジェクト	725	7,142	栗林公園魅力再興事業(コイ放流)
観光客の利便性向上によるにぎわいづくりを支援	33	475	観光客の利便性・満足度向上事業
大学生等への奨学金返還支援	21	362	奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業繰出金(支援金)
環境保全への支援	38	615	森とみどりの祭典開催事業
さぬき動物愛護センター「しっぽの森」への支援	79	1,311	動物愛護センター譲渡・普及啓発強化事業
教育への支援	38	680	「さぬきっ子学力向上」事業
瀬戸内国際芸術祭(アートプロジェクトやイベントなど)への支援	50	810	次回瀬戸内国際芸術祭準備事業
地域密着型スポーツチームへの支援	15	260	地域密着型スポーツ魅力向上事業
香川丸亀国際ハーフマラソンへの支援	13	232	香川丸亀国際ハーフマラソン大会開催事業
知事におまかせ	275	4,753	オリーブ生産拡大加速化事業

栗林公園魅力再興事業(コイ放流)

R2年度事業費	うち寄付金活用額
7,182千円	7,182千円 ※40千円は2020年寄付金を活用

特別名勝栗林公園の魅力となっているニシキゴイが多くの皆さまの善意で完全復活しました。皆さまからの厚いご支援、本当にありがとうございました。

2018年4月にコイヘルペスウイルスが確認され、園内のニシキゴイ全ての処分を余儀なくされた栗林公園は、ニシキゴイが優雅に泳ぐ池を復活させるため「栗林公園ニシキゴイ復活応援プロジェクト(コイサポ)」を立ち上げ、寄付金を募集しました。

令和2年度は 11月に 300匹を放流。これにより、放流したニシキゴイの数はコイヘルペスウイルス病発生前の約700匹を上回る750匹となりました。

ニシキゴイ放流実績

池名	面積	放流時期(H30~R2.3か年)				合計
		H30.11	H31.4	R1.11	R2.11	
南湖	7,890㎡	100匹	275匹	50匹	250匹	675匹
北湖	7,060㎡					
涵翠池	1,290㎡	-	25匹	-	25匹	50匹
西湖	5,080㎡	-	-	-	25匹	25匹
合計	21,320㎡	100匹	300匹	50匹	300匹	750匹

寄付金総括 ※ニシキゴイ購入経費のために必要な金額を超えて集まった寄付金は、栗林公園の活性化や維持管理のための事業に活用しています。

	個人 (ふるさと納税)	法人	計
平成30年度 コイサポ	735件 5,456,681円	80件 5,943,972円	815件 11,400,653円
令和元年度 コイサポ2	484件 6,505,269円	27件 3,053,467円	511件 9,558,736円



第3子以降保育料等免除事業

R2年度事業費
156,113千円
うち寄付金活用額
4,321千円

3人以上のお子さんを扶養する世帯に対して、第3子以降の保育料等を減免し世帯の経済的負担を軽減することにより、子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保される子ども・子育て支援を行うことを目的として、保育所、幼稚園、認定こども園および地域型保育事業所において、教育および保育を受けた際に保護者が支払うべき保育料等の減免を行った市町に対して減免額の半額について助成を行いました。

令和2年度助成実績

- ①3歳以上で教育認定を受けている子どもに係る副食費
 - ②3歳以上で保育認定を受けている子どもに係る副食費
 - ③3歳未満で保育認定を受けている子どもの保育に係る保育料
- 合計2,564名分 延べ27,738ヶ月分(市町への助成額156,113千円)

香川県の合計特殊出生率は1.59(2019年現在)で、全国9位と比較的上位に位置していますが、香川県での出生数は6179人(2020年分)と過去最低になっています。
香川県で次代を担う子どもたちを安心して産み、健やかに育てることができる「子育て県かがわ」を実現するため、切れ目ない支援を総合的に推進していきますので、引き続き応援をお願いします。



「さぬきっ子学力向上」事業

R2年度事業費	13,928千円	うち寄付金活用額	680千円
---------	----------	----------	-------

香川県では、県独自の香川県学習状況調査を実施しています。調査を通して、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、児童生徒の理解の程度に基づく個に応じた指導などを実施する契機としています。

令和2年度実施状況

- ・臨時休業を受け、授業時数確保の観点から「教科に関する調査」を中止し、「児童生徒質問紙調査」、「学校質問紙調査」のみ実施
- ・小3から中2の全児童生徒を対象に、小学校157校、中学校71校で実施
- ・調査結果は報告書にまとめ、各学校に配布するとともに、各学校が自校の結果分析を行うことができる「活用ツール」を作成した。

各学校において取組みの改善・充実の視点を得ることができました。今後とも、香川の子どもたちの学力向上に向けた取組みにご理解・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業繰出金(支援金)

R2年度事業費	21,400千円	うち寄付金活用額	362千円
---------	----------	----------	-------



意欲や能力が高いにもかかわらず、経済的な理由で大学等へ進学することが困難な方で、卒業後は県内に就職・定着し、かつ地域の中核的企業等を担う人材と成り得る方を支援するために、卒業後の県内での定着、就業等の条件を満たした場合、第一種奨学金返還時にその返還額の一部を支援しています。

平成28年進学及び進級予定者を対象に本制度を実施してから、令和3年進学及び進級予定者までで336名を認定しました。

がん検診受診促進事業

R2年度事業費	2,989千円	うち寄付金活用額	845千円
---------	---------	----------	-------

がん検診の受診率向上のため、休日等に乳がん検診を実施する「かがわマンモグラフィサンデー」など、がん検診を受診しやすい環境づくりに取り組みました。

かがわマンモグラフィサンデー

乳がん月間の10月の休日に、県内の医療機関の協力を得て、広域的に乳がん検診を実施しました。令和2年度から検診車では子宮頸がん検診も同時に受診できるようになりました。

令和2年度実施状況

- ・乳がん検診受診者数 329名(個別検診239名、集団検診90名)
- ・子宮頸がん検診受診者数 139名(集団検診)



過度な受診控えは、がんのリスクを高めてしまう可能性があります。がん検診では換気や消毒でしっかり感染防止対策をしています。定期的ながん検診を受診しましょう。

動物愛護センター譲渡・普及啓発強化事業

R2年度事業費

3,968千円

うち寄付金活用額

1,311千円

香川県は温暖な気候や無責任な餌やり行為などのため他県に比べ犬の収容数が多く、全国的に比較すると殺処分率、殺処分率ともワースト上位に位置している状況が続いていた状況を踏まえ、2019年に、人と動物との調和のとれた共生社会実現のための拠点施設として、県と高松市が共同で『さぬき動物愛護センター しっぽの森』を整備し、民間ボランティアの方や香川県獣医師会などと連携しながら、動物愛護管理の普及啓発や犬・猫の譲渡の推進などの対策に取り組んでいます。

2019年に皆さまからいただいた寄付金は「動物愛護センター譲渡・普及啓発強化事業」として活用させていただきました。「しっぽの森」キャラクター アイゴンが描かれた専用車両を活用した県内各所でのイベント開催などにより、犬猫の適正な譲渡の推進や広く県民の皆さまへの家庭動物の適正飼養などの動物愛護管理に係る普及啓発を行うことで、多くの方に動物愛護管理への関心を深めていただけるよう取り組みました。

しっぽの森が開設し、令和2年度については、延べおよそ9,200人の方にご来場いただき、犬1,170頭、猫498匹を大切に飼っていただけの方のもとへ譲渡することができました。

これも、皆さまをはじめ多くの方に関心と理解をもっていただいたことや、譲渡ボランティアの方々の御協力があった結果だと思えます。引き続き、応援をお願いいたします。



出張イベント「おでかけ！しっぽの森」



しっぽの森 インスタグラム

しっぽの森 はインスタグラムでも情報発信を行っています。譲渡動物やイベント情報の紹介など、タイムリーな話題をご紹介しますので、こちらもぜひご覧ください。

しっぽの森インスタグラム
@sanuki_shipponomori



WEBサイトQR

森とみどりの祭典開催事業

R2年度事業費

1,843千円

うち寄付金活用額

615千円

県民総参加のみどりづくりをより一層推進するため、みどりづくりから林業・木材の利用までの総合的な普及啓発イベントを開催し、「みどり」とともに暮らす社会の実現を目指しています。

満濃池森林公園で植樹体験を実施するとともに、林業・木材産業関係団体や森林ボランティア団体等と協力して、間伐体験や木工教室、森林の昆虫についての講演などのイベントを、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催しました。

また、コロナ禍においても多くの方に木とふれあう機会を提供するためリモート木工教室を支援するなど、広く県民の皆様に森林や林業等について身近に感じていただくことで、県民参加のみどりづくりの意識を高めることができました。



間伐体験

香川用水水源の森保全事業

R2年度事業費

21,031千円

うち寄付金活用額

537千円

私たち香川県民が利用する香川用水の水は、早明浦ダムのある高知県をはじめ、吉野川上流域の水源地域の多くの人々の理解と協力を得て開発された「貴重な水」です。

本県にとって、早明浦ダム周辺地域などの森林の水源涵養機能を保持することは、香川用水の安定供給を図るために重要であることから、吉野川上流域の水源林の除間伐及び作業道整備事業に対して助成事業を行っています。

これまでの助成実績

平成14年度の事業開始から令和2年度までの18年間の累計で、約14,600haの除間伐事業と約289kmの作業道整備に対して、総額約473百万円を補助しています。



水源林の除間伐

オリーブ生産拡大加速化事業

R2年度事業費	うち寄付金活用額
16,161千円	4,753千円

全国トップのオリーブ産地である香川県。

オリーブは、採油後の果実や水分、葉も丸ごと有効活用されており、その利用技術も世界随一です。オリーブの生産拡大はオリーブ産業の基盤として重要となっています。

オリーブの生産拡大を図るため、新植・改植による生産拡大と安定生産を行うために必要な経費に対する助成を行うとともに、オリーブオイルの高品質・安定生産を行うために必要な採油機の整備に対し助成を行いました。

令和2年度助成実績

オリーブの生産に取り組む3法人、2団体、6認定農業者の計11経営体に対し、苗木代の助成や未収益期間の支援を行い、約4haの面積拡大を図ることができました。



補助事業で植栽されたオリーブ

「おいでまい」ブランド強化事業

R2年度事業費	うち寄付金活用額
7,333千円	3,286千円

県オリジナル米「おいでまい」を、日本を代表するブランド農産物としての地位を確立し、県民米として定着させるため、県内を中心に、積極的なブランドイメージの発信を行いつつ、県外における販路拡大や高品質生産を持続するための生産者支援を行いました。

11月と12月を「おいでまい」食べよう月間と位置付け、新米発表会や新米キャンペーンなど集中的なPR活動を実施

「おいでまいフレンズ」による広報活動、「おいでまい広め隊」による出前講座、HP・SNSを活用したPR活動(350回)、各種メディアを活用したPR活動(12回)、学校給食用「おいでまい」への助成(4円/玄米kg、620t) など

「おいでまい」は8回目の収穫を終え、今年も粒張りが良く、透き通るような高い品質のお米を消費者の皆様へ提供することができました。認知度も年々高まっており、今後も生産者の皆さんの想いが詰まった「おいでまい」で消費者の方々を笑顔にしていきたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくお願ひします。



地域防災力強化促進事業

R2年度事業費	うち寄付金活用額
10,304千円	1,802千円

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、県民の「自助」「共助」の強化につながる取組みを促進し、地域防災力の強化を図りました。

- 自主防災組織等への支援
 - ・アドバイザー派遣人数 延べ10人
 - ・地区防災計画の策定など、市町等と連携しながら自ら創意工夫して行う、先進的な自主防災組織の活動を支援(補助) 15件
- 県民いっせいで地震防災行動訓練(香川県シェイクアウト)
 - ・参加登録者 242,534人(参加団体1,106団体)
- 市町・関係行政機関や香川大学と連携した事業
 - ・市町防災・減災対策連絡協議会の開催 2回
 - ・香川大学と地域強靱化について共同研究 など



かがわAIゼミナール開催事業

R2年度事業費	うち寄付金活用額
18,087千円	200千円

第4次産業革命による技術革新が進む中、特にAI(人工知能)技術については、私たちの生活や働き方を劇的に変え、また、地域が抱える人口減少、地域活力の低下などの様々な課題の解決に寄与することが期待されます。

県内企業等において、AI技術の利活用を推進するためには、自社内に専門的知識を有するキーマンとなる人材を育成することが重要であり、実践的な知識・技術を基礎から応用まで体系的に学習する機会を県内で創出し、経営者層への意識啓発を行うことを目的とし、AI人材の育成を一体的に展開する講座を開催しました。

- ・基礎講座 AI技術の習得に必要となる、プログラミング技術(Python)及び数学の基礎知識、基本的なAI実装方法を習得
- ・応用講座 東京大学松尾研究室と連携し近年のAI技術の発展につながったディープラーニング(深層学習)技術の知識及び実装方法を習得



応用講座(オンライン)

地域密着型スポーツ魅力向上事業

R2年度事業費

29,955千円

うち寄付金活用額

260千円

一人でも多くの方に試合会場に足を運んでもらえるよう、会場全体のエンターテインメント性を高めるイベントを開催し、試合観戦の機運醸成に向けた魅力づくりと情報発信を実施しています。

令和2年度は、コロナ禍の中でも来場者に安心して試合観戦していただけるよう、試合会場等において、新たな観戦様式の啓発に努めました。また、SNSを活用した選手と視聴者との交流企画を通じて、試合観戦の機運の醸成や情報発信に努めました。

引き続き、地元・こころのふるさと香川のスポーツチームを応援して下さるようお願いいたします。



(C)S.M.E



(C)KAMATAMARE SANUKI



(C)KAGAWA FIVE ARROWS

観光客の利便性・満足度向上事業

R2年度事業費

4,629千円

うち寄付金活用額

475千円



幅広い層の観光客の誘致と、県内での宿泊を伴う滞在型観光や県内各地への周遊型観光を促進するための公式観光パスポート「うどん県おもてなしパスポート」を発行しました。

令和2年度発行部数 45,000部

香川丸亀国際ハーフマラソン大会開催事業

R2年度事業費

4,750千円

うち寄付金活用額

232千円

第75回大会は1年延期となりましたが、この間、大会HPにおいて高橋尚子さんら過去の出場選手等からの応援メッセージリレーやこれまでの大会の名場面を掲載するなど、大会の魅力を発信し、次回大会に向けて機運醸成を図り、令和4年2月の開催に向けて準備を進めました。

次回大会のキャッチコピーは「REBORN」

参加される皆様にとって安心安全で、これまで以上に魅力ある大会に生まれかわるという気持ちを表しています。

これからも多くの皆様に愛され、楽しんでいただける大会となるよう準備を進めていますので、次回大会をご期待いただきますとともに、今後も応援よろしくお願いたします。



前回第74回大会(R2.2月)

次回瀬戸内国際芸術祭準備事業

R2年度事業費

26,647千円

うち寄付金活用額

810千円

令和4年4月に開幕予定の「瀬戸内国際芸術祭2022」に向け、皆様に安全・安心にお楽しみいただけるよう、着実に準備を進めました。

また、感染症対策を講じながら、過去の芸術祭アート作品の継続公開や各種イベントなど、地域におけるアート活動を「ART SETOUCHI」と称して、瀬戸内の島々の活性化や芸術文化によるにぎわいづくりを図るとともに、瀬戸内の魅力や「アートの香川」を目指しました。

第5回を迎える「瀬戸内国際芸術祭2022」は、これまでの芸術祭に引き続き、「海の復権」をテーマとし、瀬戸内の12の島々と2つの港周辺を舞台に、春、夏、秋の3会期、計105日間での開催を予定していますので、引き続き、応援をお願いします。



英語ガイド体験ツアー(小豆島:R2.9月)